

## 終戦 80 年 戦跡記念碑をたどる①

史蹟史料部



この度の日本人会会館改修工事にあたり、事務局オフィスも移設のため荷物の整理を行っていたところ、史蹟史料部が管理している資料の棚の中から、一冊のファイルに入った手書きの地図の束が目にとまりました。

それは 1995 年、終戦 50 周年の時にシンガポール政府が設立した戦跡記念碑についての説明書きでした。

特徴のあるその文字を見て、史蹟史料部は、それらの地図と説明書きが、[南十字星 2024 年 5 月号掲載の史蹟史料部ニュースレターでご紹介した佐々木賢一さん](#)によって書かれたものだと気が付きました。佐々木さんは筆まめな方だったのか、日本人会には彼からの手紙がたくさん残されており、いつしか彼の文字が判別できるようになっていました。「戦争の傷跡を多くの人に見てもらい、亡くなった人びとをとむらうのが私の務めです。仕事を通じて日本とシンガポール両国の理解促進にお役に立ちたいと思っています。」とインタビューに答えた佐々木さんは、自身の旅行会社で戦跡ツアーを行い、シンガポールに暮らす日本人に歴史を伝えました。終戦 80 年を迎えるこのタイミングで、山下奉文中将の護衛官を務めた佐々木さんの手書き資料ファイルを見つけたのは、戦跡記念碑を調べる機会なのではないかと思い、史蹟史料部で訪ねてみることにしました。

戦跡記念碑はナショナルヘリテージボードによって設立されたもので、1995 年当時は島内 11ヶ所がありました。本を広げたような形の碑で、英語、マレー語、中国語、タミール語、そして日本語でそれぞれの場所の当時の歴史的事実を銅板に刻み、後世に伝えています。1995 年 8 月 15 日から 9 月 15 日の 1 か月間は、ローカルの小中学生に参観させ、当時の次代のシンガポールの若者に国家防衛の必要性を教育していたそうです。現在は記念碑が増え、島内 30 カ所にあります。

## 第二次世界大戦の戦跡記念碑地

1. SARIMBUN BEACH LANDING ★	16. JAPANESE PROPAGANDA CENTRE ★
2. BATTLE AT KRANJI BEACH ★	17. INDIAN NATIONAL ARMY ★
3. WITHDRAWAL TO SINGAPORE	18. SELETAR AIRFIELD
4. JURONG-KRANJI DEFENCE LINE ★	19. PUNGGOL BEACH MASSACRE
5. BUKIT BATOK MEMORIALS ★	20. CHANGI BEACH MASSACRE
6. BATTLE AT BUKIT TIMAH ★	21. PALAU SEJAHAT
7. FORCE 136(LIM BO SENG'S BURIAL SITE)	22. JOHORE BATTERY
8. EXECUTION OF CAPTURED RIMAU COMMANDOS	23. CHANGI MURALS
9. BATTLE AT PASIR PANJANG ★	24. 7 ADAM PARK (BATTLE AT DAM PARK)
10. LABRADOR BATTERY ★	25. SIME ROAD MACHINE-GUN PILLBOX
11. SENTOSA BEACH	26. SIME ROAD CAMP
12. KEPPEL HAROUR	27. SHONAN JINJA
13. SOOK CHING INSPECTION CENTRE ★	28. HAVELOCK ROAD CAMP
14. FORT CANNING COMMAND CENTRE	29. ALEXANDRA HOSPITAL
15. KEMPEITAI EAST DISTRICT BRANCH ★	30. PASIR PANJANG MACHINE-GUN PILLBOX

★は 1995 年に設立された記念碑

第一回目は、陥落前の最後の戦いの場所となったパシルパンジャンの記念碑をご紹介します。

### 9. パシルパンジャン攻防戦 BATTLE AT PASIR PANJANG COMMANDOS

設置場所 : Kent Ridge Park Carpark B, Vigilante Drive



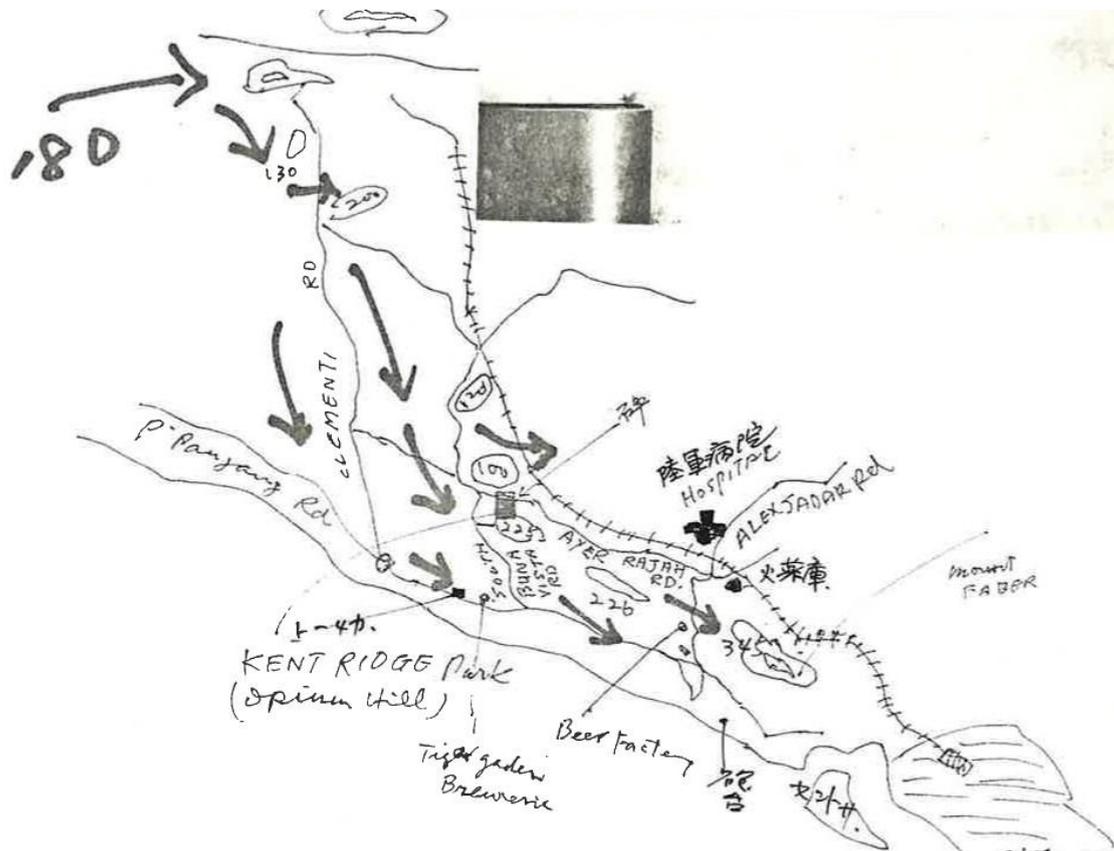
パシル・パンジャンでの戦いは、港と英軍の貯蔵庫を手に入れるための最後の戦いとなり、1942年2月12日から14日まで続きました。

1942年2月中旬、アドナン中尉が率いるマレー連隊と日本軍2部隊との激しい2日間の戦闘がここで行われました。これはシンガポールをめぐる最後の戦いの一つであり、マレー連隊は兵力が最後の数人になるまで、この稜線を守り続けました。

戦闘はパシル・パンジャン稜線で行われ、マレー連隊第1大隊と第2大隊によって日本軍に対する48時間の壮絶な抵抗が繰り広げられました。

第7小隊のアドナン少尉が示したような模範的な行動と指導力に駆り立てられた兵士たちの勇気が、第1・第2大隊マレー連隊、英国第2忠誠連隊、オーストラリアのベンガン運搬兵、第44インド旅団の兵士たちの決意を固め、最後まで戦い抜かせました。弾薬が足りなくなると、兵士たちは日本軍と白兵戦（剣刀・槍での接近戦）を繰り広げました。マレー連隊は兵力がほとんど尽きるまで稜線を守り続け、生き残った兵士たちは驚異的な闘志を發揮しました。日本軍に追われ、燃えさかる油の排水溝に遭遇したとき、彼らは降伏するよりも炎に耐えることを選びました。残念ながら、疲れ果てた4人の兵士は燃えさかる排水溝のそばで、2人は生きたまま焼かれました。パシル・パンジャン稜線の最後の守備兵の一人であったアドナン少尉は捕らえられ、銃剣で打ち殺されました。

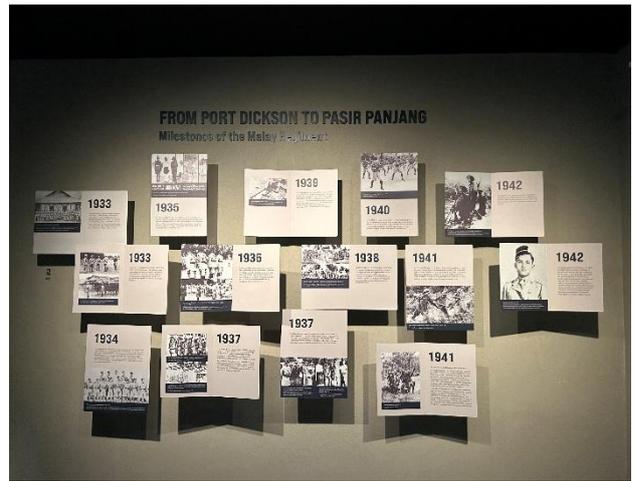
今日、ケント・リッジ・パークは、勇敢な防衛隊員の勇気と犠牲の証として、シンガポール防衛のシンボルとして建っています。（出典：ナショナルヘリテージボード）



佐々木賢一さん手書きの地図



ケント・リッジ・パークから見渡せるパシル・パンジャンの港の風景



ケント・リッジ・パークの近くには、パシル・パンジャンでの戦いに散ったマレー連隊の展示したブキ・チャンドゥ回想館があります。2階には、アヘン加工工場としての歴史や近隣地域に点在していたパイナップル農園など、戦争以前のもっと平和だった時代のブキ・チャンドゥとその周辺の歴史を伝えるギャラリーがあります。